

平成29年12月第7回定例会一般質問事項（12／11・12）

1 山田 栄 議員（志政会）

（1）坂本市長の政治姿勢について

- ・来春の市長選に向けてどのような考えか。

2 辻 人志 議員（政友会）

（1）将来世代への負担を考えた財政運営を

- ・一般会計における過去3年間のプライマリーバランスの推移と今後の見通しは。
- ・来年度以降、本庁舎や学校給食センターの整備計画などがあるが、今後基金を大きく取り崩す要因が発生する事業は何か。
- ・今後の基金残高の見通しは。また、基金残高の適正な額はどのくらいであると考えるか。
- ・今後の財政運営に関して、市のプライマリーバランスについての考え方を問う。

（2）ごみの減量化対策を問う

- ・減量化目標を達成するために、家庭から排出されるごみ減量について、市の取り組みを問う。
- ・事業系ごみ減量の取り組みは。
- ・宿泊者・観光客等の滞在者によるごみの対策は。
- ・三国祭や三国花火大会等のビッグイベントにおけるごみ対策は。
- ・雑紙の分別・リサイクルに関して、回収バッグの配布や回収専用ボックスの設置を行っているが、その効果は。

3 渡辺 竜彦 議員（志政会）

（1）少子化の現状と取り組みは

- ・市の2016年の出生数は。
- ・市のここ5年間の出生数は、減少傾向にあるのか。増加傾向にあるのか。
- ・今後の出生数アップに向けた市の取り組みは。

（2）坂井市の婚姻の現状は

- ・市の2016年の婚姻数は何組か。
- ・市の千人あたりの婚姻率は。
- ・市の生涯未婚率は。

4 川畑 孝治 議員（政友会）

（1）小中学校における生徒指導について

- ・市における生徒指導のあり方は。
- ・発達障害など生徒の症状把握は。
- ・指導方法について情報共有体制は機能しているか。

- ・担任教諭などへの支援は十分か。

(2) 成年後見制度について

- ・成年後見制度について市民への周知は。
- ・成年後見制度の相談窓口は。

5 後藤 寿和 議員（志政会）

(1) 小中学校における教師と生徒の関係性

- ・市内の小中学校で、現在いじめの報告はないのか。
- ・生徒と教師の間にトラブルは報告されていないのか。
- ・スクールカウンセラーへの相談件数は何件あり、どのような相談が多いのか。
- ・上記のような問題が発覚したらどのように対処しているのか。
- ・教師と生徒の良好な関係性を構築するために、市内の小中学校にP B I S（Positive Behavioral Interventions and Supports：ポジティブな行動介入と支援）を取り入れてはどうか。

(2) 坂井市ふるさと納税の大反響について

- ・現在まで、市ふるさと納税はどれだけ集まっているのか。また、市内への経済効果としてどれほど波及しているのか。
- ・本年度のふるさと納税は、最終的にどこまで増えるの見込んでいるのか。
- ・市のふるさと納税がこれほどまでに大きく変化したことに対して、分析は行っているのか。
- ・広報さかいにも掲載されたが、市民の公募で実現できることは魅力的である。現在の募集状況は。

6 上出 純宏 議員（志政会）

(1) 本庁増改修工事に坂井市の工業力の活用を

- ・市の各企業に協力を仰ぎ、それぞれの工業力を本庁舎の増改修工事に生かしてはどうかと考えるが、市長の見解を伺う。
- ・計画案の中のアトリウムはかなりのスペースがあるが、そこには市のPRコーナーも設けてほしいと考える。市長の所見を伺う。

(2) 国際的な課題に積極的な対応を

- ・市における在住外国人の10年の変化をどう分析するか。また、今後をどう予想するか。
- ・在住外国人の方々への生活面のケアや悩みには、どのように対応しているか。
- ・インバウンド問題について、全国各地ではネット環境を生かして観光、商業、工業面での積極的な対応がおこなわれているが、市でももっと積極的な取り組みをしてほしいと考える。市長の見解はいかがか。
- ・嘉興市との交流事業は当初目指していた経済交流が難しいことから棚上げになっているが、市として国際的な課題に対応するには、世界の事情に通じた知恵袋が必要ではないか。

7 戸板 進 議員（志政会）

（1）観光客の受入環境整備について

- ・市には年間500万人の観光客が訪れるが、その経済効果額はいくらになるのか。また、訪れた観光客に快適に買い物をしてもらうためには何が必要だと考えるのか。
- ・市民が観光都市として自覚を持ち、観光客が観光都市坂井を知るために、観光客受入の環境整備を進める必要があると思うがどうか。
- ・市民にとって住みやすく、また観光客にとっても訪れやすくするために、「環境都市さかい」を宣言した市として、環境美化に努めなければならないと思うが、現状ではどのような対策を取っているのか。
- ・来年開催される「福井しあわせ元気国体」を、観光客にも知ってもらう必要があると思うが、どのような周知方法、対策を取っているのか。

8 南川 直人 議員（志政会）

（1）丸岡城、城周辺整備と賑わい創出

- ・国宝を目指す丸岡城下、一筆啓上茶屋の改築はどのように行われるべきか。
- ・城周辺住民の住宅移転希望者にどのように対応するか。また、空き家や周辺住宅の現状について調査を進めるべきではないか。
- ・市として天守周辺の整備に早急に着手することが望まれるが、そのために、アーバンデザインセンター坂井で取り組むべきスキームをどう整えるのか。
- ・現存十二天守の中で、最古の城である丸岡城を持つ市として、どのように十二天守同盟に関わり、坂井市、丸岡城を全国に発信していくのか。
- ・地域おこし協力隊の導入効果として、隊員、地域、行政の三方良しの取り組みと言われている。丸岡城天守を国宝にする市民の会の活動が活発化する中、丸岡城周辺の活性化に協力隊を置くことができないか。
- ・市の魅力を一体化するため市の駅を定め、例えば、丸岡城一筆啓上茶屋を城の駅と命名し、市全体を、海の駅、ゆりの駅、山の駅と結び、文化と観光を織り交ぜ、市民、観光客に市の持つ魅力を提供することはできないか。

9 川端 精治 議員（志政会）

（1）坂井市公共施設等総合管理計画について

- ・公共施設等総合管理計画は30年後を想定した計画であることから、地域コミュニティも30年維持可能な状況でなければならない。そのことから、幅広い年齢層から意見を集約し、反映させる必要がある。市の所見は。
- ・平成32年に移転が予定されている三国学校給食センター跡地の活用方針は。

10 小原 慶之 議員（政友会）

（1）福井しあわせ元気大会について

- ・現在の市のボランティアの登録状況は。
- ・選手団のサポートボランティアについて、市として募集することは可能か。

- ・市の物品などのブースなどは考えているのか。
- ・障がい者施設で制作している製品などを売るブースなどは考えているのか。

1 1 永井 純一 議員（公明党）

(1) 子ども医療費の無料化拡充について

- ・総合計画の目標でもある結婚し生み育てやすい環境整備の完結に向けて、18歳までの子ども医療費の無料化拡充実現を再度お願いする。市長の決断を伺う。

(2) 防災・減災対策について

- ・どのような災害が起きたとしても、被害を出さない、もしくは被害を最小限にとどめるために、専門性を持った職員を配置し、対策を講じる必要があると思う。県下第二の都市として防災・減災に係る専門部署の創設を求める。改めて考えを伺う。

(3) いじめの問題について

- ・池田中学校の件をどう捉えているか。
- ・いじめを早期発見、早期対応するためにSNSを活用した、相談や通報できるシステムを導入すべきと思うが、所見を伺う。
- ・市内において、民間がLINEでいじめ相談を行っているがご存じか。また、そのような活動をしていることに対しての所見を伺う。

1 2 田中 千賀子 議員（政和会）

(1) 「エコドーム」開設について

- ・本年度から3年間の時限措置で雑紙の資源回収に入っているが、現在の状況、実績、課題について伺う。
- ・衣類のリユース（再利用）について。
- ・エコアクション事業について。
- ・環境教育について。
- ・木育の推進について。
- ・生ゴミの堆肥化について。

(2) 水産振興について

- ・フィッシャーマンズの進捗状況について伺う。
- ・さかな祭でおかみの会が甘エビ入りのはんぺんを販売していた。6次産業化してはどうか。例えば甘エビは三国の特産品でもあるので、学校給食のメニューにしてはどうか。

(3) 男女共同参画・女性活躍推進について

- ・第2次男女共同参画推進計画の方向性・重点目標について。
- ・地域への男女共同参画の推進について。
- ・市の政策に女性の意見をどのように反映していくのか。

1 3 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団）

(1) 池田中学校男子生徒自殺問題の教訓をどのように生かしていくのか

- ・市教育委員会として、この問題についてどのような協議がなされ、どう対処したか。
 - ・この問題を教訓に、今後、どのように具体的に取組もうとしているか。
- (2) 発掘調査における遺物などの保存、調査、整理などに必要な場所と人員確保を
- ・遺物や出土品などが保存されている場所はどこになっているのか。展示できる施設の確保が必要では。
 - ・調査・研究、整理などにおける人材は確保されているか。
- (3) 地域包括支援センターの体制の充実・強化を
- ・基幹包括支援センターと地区包括支援センターの連携の強化をすべき。
 - ・住民に近いところでの相談窓口として「ランチ」の設置を。
- (4) 非婚のひとり親支援・「みなし寡婦控除」の適用を
- ・市における非婚の世帯数と保育料に係る影響額は。
 - ・非婚のひとり親家庭への寡婦（夫）控除等のみなし適用を。

14 上坂 健司 議員（政和会）

- (1) 地域防災力充実強化と危機管理対応力について
- ・これまで行った質問のその後について伺う。
 - ①防災専任の責任者について。
 - ②防災会議委員の拡充について。
 - ③市内各自主防災組織相互の交流と情報交換の円滑化とともに、総体的な防災活動の強化、推進のため「自主防災協議会」の創設が必要と考えるが所見を伺う。
 - ・水防法改正による、洪水想定はどのような見直しを行い、市民に周知していくのか。
 - ・災害対策基本法改正および水防法改正による、避難行動要支援者の体制強化はどうか。

15 前川 徹 議員（政和会）

- (1) 児童福祉法の改正と児童の健全育成について
- ・子育て世代包括支援センターは、地域の特性に応じた支援を提供することになるが、その内容と設置時期は。
 - ・子ども家庭総合支援拠点の設置について、その内容と設置時期は。また、子育て世代包括支援センターと一体的に実施するのが望ましいと考えるが。
 - ・社会的に自立に至るまで包括的・継続的に支援していくには、教育委員会との連携、協力体制が必要と考えるが。
 - ・子どもの貧困対策は。
 - ・医療的ケア児の支援に取り組むために、保健、医療、福祉、教育の連携体制を構築すべきでは。

16 松本 朗 議員（日本共産党議員団）

- (1) 核兵器禁止条約について
- ・核兵器禁止条約が国連で採択されたことをどう評価するか。

- ・核兵器禁止条約の成立に貢献したNGO組織 I C A N がノーベル平和賞を受賞した。喜ばしいことだと考えるか。
- ・国連における日本政府の態度は、改められるべきと思うか。

(2) 社会保障の改悪計画への所見を問う

- ・高齢者の生活は現状でも深刻。2割負担には反対の意見を表明すべき。
- ・要介護1、2を市の地域支援事業にすることは、市の体制、現況から無理があるのではないか。
- ・介護、医療の診療報酬を引き下げれば、市内の介護事業所、医療機関、とりわけ三国病院の経営にも悪影響があるのではないか。反対を表明すべきである。

(3) 教育委員会の在り方と三国給食センターの民間業務委託について

- ・調理業務の民間委託を検討することについて、教育委員会は、いつ指示をしたのか。
- ・民間業務委託は、その従業員である調理師が委託業者の都合や、退職が頻発するなどにより、入れ替わり、調理現場のスタッフが一定しない状況が一般的にある。これは、調理業務の安定にはつながらないということにならないのか。
- ・福井市では、民間委託をしているが、委託前に比べ、経費が増大している。こうした事実を把握しているか。坂井市でも、経費は増大する可能性が高いと考えるがいかかか。
- ・現行の市教育委員会の体制は、2014年法改正前の状態である教育委員会が教育長を指名したもので、教育長への監督権限は、教育委員長と教育委員会にあると考えるが、その通りか。
- ・教育委員会の役割と権限を、法規定に基づき強化することを求める。
- ・教育委員会会議録がホームページ上に公開されているが、一般的な協議事項も掲載すべきである。

17 田中 哲治 議員（志政会）

(1) 本市の景気動向について

- ・市民所得と暮らしぶりについて、総務省調べでの本市の平成27年度における市民1人当り所得は132万円と3年連続増加し、これは地域産業の活力の維持や市の取り組みの効果といえるが、今後の効果的な施策あるいは構築をどう考えているのか。
- ・U I J ターン確保で生産年齢人口を増やすためには、企業誘致が不可欠と考えるが、どのような施策を考えているのか。また、今後、工業団地への新たな企業誘致をすすめるうえで、どこを中心に考えているのか。
- ・平成30年度から農家への米の直接支払交付金7,500円/10aが廃止されるが、本市の景気動向にどう影響するか。見通しを問う。（全国で723億円）
- ・地方が元気にならなければ我が国は元気にならないと言われているが、地方の再生、活力が本市の景気を上昇させると思うが、市の考え方を問う。